

あまり知られていない 不妊のこと

4.71%

(国内の赤ちゃんの21人に1人)

47,322人

(体外受精・顕微授精で出生した児) ※1

1,003,539人

(平成26年度 総出生児数) ※2

体外受精と顕微授精によって生まれた子どもの割合(平成26年度)です。

※1 日本産科婦人科学会集計による

※2 人口動態統計による

● 体外受精・顕微授精の説明は、5ページにあります。

AMH検査

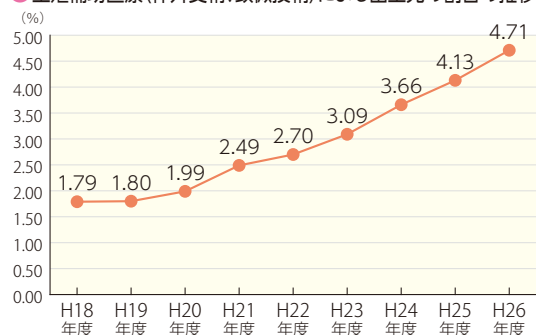
(アンチミュラーリアンホルモン検査)

AMHとは、発育過程の卵胞から分泌されるホルモンのこと。血液検査によって、このホルモンを調べることで、卵子の残りの数の目安が分かります(卵子の質を表すものではありません)。

卵子は年齢とともに減少し、増やすことはできません。未婚・既婚に関係なく30歳を過ぎたら知っておきたい検査(保険外検査)です。結婚、妊娠などのライフプランを考えるためにも有用です。

そこで、なかなか人に聞けない不妊のことや治療のこと、多様な人生設計について考えてみたいと思います。

● 生殖補助医療(体外受精、顕微授精)による出生児の割合の推移



生殖補助医療出生児数：日本産科婦人科学会集計 総出生児数：人口動態統計

ライフスタイルや結婚に対する意識の変化などによって結婚年齢が上がり、男女の加齢と妊娠の関係が、不妊に大きく影響していることが分かっています。

現在の日本では、不妊の夫婦の比率は10〜15%とされており、10組に1組が不妊に悩んでいるということになります。この比率は、徐々に増加しています。

